

## CASE 教材

### 「地元九州の魅力を世界の人々へ届けたい。」



#### 有限会社一平とは

宮崎市内の裏路地にある「一平」という一軒の寿司屋から会社は始まった。初代創業者、村岡正二氏から引き継がれた”地域に愛される新しい食文化を作りたい”という理念は、やがて”九州の魅力を世界に届けたい”という大きな夢へと発展した。豊かな食材の宝庫である地元九州の大地の魅力を、もっと地域の皆さんに届けたい。そして、世界の食卓へ、九州の美しい自然に育まれた美味しい笑顔を伝えたい。まっすぐに、正直に、安心して楽しめる毎日の美味しさを追求する。そんな想いで、九州で採れる素晴らしい食材の数々を素敵なプロジェクトにしている。愛するふるさと九州-Kyushu-を、より魅力的で豊かな地域に育てていきたい。食文化で地元に貢献できる企業を目指している。有限会社一平は、想いをカタチにし、人びとの笑顔と喜びをつなぐ3つの事業を展開している。



#### 九州パンケーキとは・・・

大分県産と熊本県産の二種品を混ぜた小麦ミックス。宮崎県の綾町からは、農薬を使わず育てられた松井農園の合鴨農法の米。それを日向市のコダマの工場で発芽玄米にしている。長崎県雲仙市の美しい段々畑からは無農薬の熊本市からは、稲作の源流といわれる古代米の黒米と赤米。鹿児島県の大地で育てられたうるち米は、もちりとした食感を出してくれる。砂糖は、沖縄県と鹿児島県のさとうきびからつくられた、優しい甘味が特徴のきび砂糖。乳化剤・香料・加工でん粉などは一切使用せずに、膨張剤もアルミニウム含有のないものを選んでいる。生産者とともに地域風土に根ざした商品に育てていくことを目標としており、産地と消費者を、笑顔のテーブルを通してつないでいく思いがある九州パンケーキが誕生した。2012 年冬の発売から 1 年後、九州パンケーキは農林水産省が主催した食のコンテスト「第 1 回地場もん国民大賞」で大賞を受賞し、日本一の地産プロダクトの称号を獲得した。すべての素材において、産地や農家まで安心・安全への徹底的なこだわりや九州全体を1つにくくり、広域的な地域資源の付加価値によって市場に訴求することを表現した斬新な発想。そして何よりも、九州の素材の米や雑穀が生み出す「もちもち、ふわふわ」とした食感や味が評価され受賞した。フェイスブックやインスタグラムといった写真共有サービスが世界的に流行し

始めたことも追い風となり、九州パンケーキは、瞬く間に口コミで若い女性を中心に広がっていった。2016 年に全国放送の経済ドキュメンタリー番組「カンブリア宮殿」で特集されると、その知名度は一気に全国へと広がっていった。地元で愛されていないものなど、ただのブームで終わってしまう。九州



## CASE 教材

パンケーキが目指すべきは、地元で根付く長く愛されるロングセラー商品。手始めに宮崎市の商店街の空き店舗を借りて子ども向けパンケーキ教室を開くことにした。回を重ねるごとに少しずつ参加者も増え九州パンケーキの存在も浸透してきた。さらに、地元の幼稚園や小学校を回って九州パンケーキの食育教室を行っている。スーパーマーケットの顧客向けの料理教室や親子向けのパンケーキ教室も積極的に開催 2017 年 12 月現在、年回 100 回を数えるほどになっている。「地元のお客様が第一」との思いをもって発信してきた九州パンケーキは、地域に愛される商品として徐々に定着してきた。

### グローバル社会へ・・・

九州各地で九州パンケーキに関わってくれる人たちや、起業家仲間と想いを共有しながら九州独自のブランドを生み出していこうという考え方が広がりつつある。地元を大切に考え、地元を盛り上げるために、活動の軸は自分の生きる場所にしっかりと根を張ること。そして、ビジネスの成長から得られる利益を地域の活力に循環させるために、勇気を持ってより広いマーケットへ、世界へ踏み出すこと。常に地元志向で考え、地域全体へと意識を拡げて行動しながらグローバルで勝てる自社の強みを見つけビジネスを拡大していく事業展開である。

2013 年 5 月東京・代官山の路地裏にひっそりと開かれた九州パンケーキのカフェわずか二年半で閉じたこの店舗が世界への扉を開く出会いを運んでくれた。2014 年春、東京代官山の九州パンケーキカフェに偶然通りかかり来店した台湾の台北市で、貿易商社を運営する蔡景明（サイジンミン）氏がコンセプト、味、親切な接客に感動した。その後台湾と包括的なパートナーシップ契約を締結し、九州パンケーキは海を渡り現在に至る。

### 新ブランドの展開・・・

九州パンケーキミックスを発売してから、丸 5 年が経った。5 年という節目を迎えて、家庭の中に新しい商品を提案することができないかと、数年間にわたり試行錯誤を重ねてきた。

2017 年 5 月には、新社屋（MUKASA-HUB）を建造し、クッキングルーム（研究室）を作った。そこで毎日、毎日、スタッフたちが試行錯誤を繰り返して、九州中のパートナー（農家さん、製粉会社、パン職人さん、料理研究家）や仲間たちのご協力を得て、ついに満足のいく品質の、念願の新ブランドを立ち上げる運びになった。小麦を主原料として、さまざまな雑穀をバランスよくブレンドした九州パンケーキは、実はさまざまな調理に使える万能ミックスでもあります。プロダクトの概念に九州の農業の資源を自由自在に掛け合わせて、無限の可能性を探ってみたいと試みている。

そんな着想を形にしたショップ「九州パンケーキ Kitchen」を、2018 年 3 月 16 日、増床リニューアルオープンする宮崎市のイオンモール宮崎内にオープンした。新ブランドは、その中に展開している。40 坪ほどの店内には、店舗面積の半分ほどを占める大きなキッチンにあたかも工場のように併設し、九州パンケーキを使ったさまざまなものづくりに挑戦している。

農業経営者株式会社 GRA 代表取締役 CEO 岩佐大輝氏は村岡氏をこのように述べている。「村岡さんは無私の経営者だ。壮大でちょっと無謀なんじゃないかと思うようなリスクをあっさり受け入



## CASE 教材

れる。地域社会や周りの人間が明るくなるかどうか。ビジネスって事業プランも大事なんだけど、経営者がそれにかかる想いの強さや覚悟、つまり情念みたいなものがすべてなんだと思う。」

村岡浩司社長は、全力で支えてくれている起業家へ感謝の気持ちを忘れず、地元宮崎から世界へ変化を受け入れる未来志向企業へと発展させ続けている。

有限会社一平の事業内容や新ブランドとは何か考えてみよう。

九州パンケーキのCMを視聴して有限会社一平の地域ビジネスに対する想いを考えてみよう。



有限会社一平のリーフレット及び書籍を参考にした。また、ケース教材作成に際し九州パンケーキ HP 及び有限会社一平の村岡浩司様、内村様に多くの聞き取りにご協力をいただいた。記して感謝したい。

## CASE 教材

問1 有限会社一平の3つの事業内容を具体的にインターネット等を利用し調べてみよう。

事業名	内 容

問2 九州パンケーキについて次のキーワードを使用して記述しなさい。

キーワード

垂直的拡大 水平的拡大 異質的拡大 地域資源 グローバル

製品標準化政策 製品多様化政策 製品差別化政策 商品企画 創造 ビジネス

--

問3 九州パンケーキの新ブランドとは何か。6つ書きなさい。

・	・
・	・
・	・

このように、九州パンケーキの新ブランド展開によって、戦略に合わせた効果的な製品の幅と深さを組み合わせている。このことを（ ）という。

問5 振り返り 授業内で感じたこと、気づいたことをなど書いて下さい。
